



ご挨拶

この冬も雪は少ないのでしょうか？天気予報では、年内はまだ気温が高く、暖冬ようです。穏やかな年の瀬となりました。今年は新しく令和に年号が変わり、猛暑の夏となり、秋には台風で関東方面に甚大な被害が出ました。一年を振り返ってみて、久斗山は特に大きな災害も無く、比較的良い一年だったように思います。来年は子年、うるう年で東京でオリンピックが開催されます。来年も良い年になることを願っています。

【大杉神社のしめ縄も新たに、新年を迎える準備できました！】

今年一年間、大杉神社の鳥居と大桧に巻かれていたしめ縄が、新年を前にして新たなものに交換されました。

12月8日(日)、ふれあいセンターに早朝よりすこやかクラブ(老人会)の皆さんが、藁などの材料を持ち寄って集まりました。それぞれが協力しながら藁をねじり、“なっ”ていきます。大きなしめ縄を作るのは、とても力のいる作業です。鳥居に下げる一番大きなものと、社殿と公会堂用の小さなもの二つ、それに大桧の幹にぐるりと巻くしめ縄をそれぞれ作り、それに紙垂を付けて、2時間ほどで出来上がりました。

完成したしめ縄は、さっそく神社総代と一緒に大杉神社に持って行き、旧いものから、新しいしめ縄へと交換されました。鳥居のこのしめ縄には、雨で濡れるとすぐに腐ってしまうので、濡れないようにビニールのカバーが被せてあります。社殿の前と、大桧にも幹にぐるりと巻きつけました。

ふれあいクラブの皆さん、お疲れさまでした。その後には一年をねぎらう忘年会が催されました。



藁などの材料を持ち寄って。

鳥居に大きなしめ縄を設置。



雨に濡れないよう、ビニールを被せてあります。

大ヒノキにもぐるりと巻きつけました。

【「子ども自然教室冬の里山生物観察会」の開催】

今年もやっぱり暖冬？一時寒い日もありましたが、12月になっても比較的暖かな日が続きます。

12月15日(日)、久斗山地区の公民館行事「子ども自然教室 冬の生きもの観察会」が開催され、8名(子ども6名、大人2名)の参加がありました。

ちょっと小雨が降っていましたが、午前9時に久斗山公民館前に集まった参加者は、観察上の注意点などを聞き、剪定バサミなどを借りて出発しました。大杉神社の下の道を上り、丸山方面からイモジ口より県道に出て、ぐるっと集落の上を巡るコースを歩きました。

樹木の枝先の冬芽や、葉が落ちた跡が顔に見えるのを観察したり、フユイチゴの実を口に入れてみたり、落葉の下のテントウムシやテングチョウを発見したり……2時間ほどの短い観察時間でしたが、好奇心旺盛な子供たちは次々と生き物を見つけました。殺風景な冬の里山も、探してみると色々な発見があるもんです。



大杉神社の前で参加者全員。



冬芽と顔

テング
チョウ



ツバキ
の花

芋洗い
の水車



【数十年ぶりの山、村の共有林】

近年は、ほとんど誰も山に入ることが無くなりました。シカやイノシシ等の、野生動物の天国になっています。そんな折、北但西部森林組合と一緒に横谷の奥にある村の共有林等の境界確認がありました。

12月9日、区長ほか4人と森林組合2人で山に入りました。十数年ぶりの山は、荒れていて、あちこち獣道だらけでした。



【毎週金曜は百歳体操の日：すこやかクラブ】

すこやかクラブの皆さんは、毎週金曜日の午後1時よりふれあいセンターに集まり、百歳体操をしています。

毎回、10人ほどの参加者があります。12月13日は9人でした。最初にそれぞれ血圧を測定して、記録帳に記入します。前回よりちょっと高かったり、低かったり・・・その日の体調を確認します。その後で、椅子に座った状態で、「百歳体操」のビデオを見て30分ほどの時間、体操をしました。7月には町役場から担当者も来て、握力や脚力等体力測定が行われました。みなさん、何時までもお元気で。



最初に血圧を測ります。



ビデオの画面を見ながら百歳体操をします。

【今シーズン初の積雪】

12月の第一週は寒気が南下して、冬型の気圧配置となりました。6日(金)の朝は、初めて雪積(1~2cm)があり、周囲は白くなりました。その後はまた例年より暖かい日が続いていますが、次はいつ積もるかな～？



○令和2年 1月の行事

- 1日(水) お正月 元旦
- 7日(火) とんど焼き
- 12日(日) 第13回くとだに地区卓球大会(午前9:00~浜坂東小学校体育館)スポーツクラブ21くとだに
- 16日(木) じゅずくり
- 26日(日) 子ども自然教室(午前9:00~11:00)雪遊び・雪像づくり



ジオsen.s(センチンス)の行事

「かんじきハイキング」

◎開催日：令和2年2月1日(土)
9:00~14:00

◎集合：上山高原ふるさと館
◎料金：1000円 (かんじきレンタル料含む)

【内容】

かんじきやスノーシューを履いて雪上を歩きながら動物の足跡などを観察します。

お弁当持参・服装はスキーウェア

【問い合わせ・申込み】

giosen.s.tankyu@gmail.com
090-3688-4200 (担当：松岡)



晩秋から初冬に茶色い実がつく(上は花)。

**今月の野草
ヘクソカズラ**

山浴いの道端や荒地の草むら、時には庭先の植木などに絡みついていてツル植物です。葉や茎が臭い嫌な臭いがする。ことから屁糞という悪名がつけられましたが、夏にかわいい花をつけるので早乙女花(サオトメバナ)の別名があります。初冬の枯野で、丸い茶色の粒状の実をよく見かけます。

**かかって昔話
大ヒノキの声(第三話)**

作、いつこう

玄太は、辛い農作業の仕事の合間に、時々、大杉神社の大杉から色んな話を聞くことが唯一の楽しみでした。やがて季節は夏から秋になり、田んぼの稲もすこしづつ黄金色に色づいて、稲刈りも近くなってきました。ある日、玄太は大杉から驚く話を聞きました。それは、屋久島という南の島の山中に、千年以上も前から生きている杉の樹から伝わってきたことですが、南の海でとても巨大な台風が発生し、それが大雨と大風をまき散らしながら、少しづつ北東に進んでおり、どうも玄太の村に、あと3日ほどで直撃するといふものでした。それを聞いた玄太はすぐに村の人々にその話をしました。しかし、玄太が大杉から聞いたと言うと、誰一人として信じてくれませんでした。玄太は必死になって村人に早く避難するように説得しましたが、反対にバカにされる始末です。いよいよ明日は台風が襲来するといふ日、朝は晴れてとてもいい天気でしたが、午後になって生ぬるい風が吹き、やがて空は真っ黒な雲に覆われて夕暮れのようにになりました。その時になって、村人達は、はじめて玄太の言っていたことが本当らしいと気づき、夜中のうちに慌てて村の高台にある大杉神社に避難しました。朝方から今まで経験したことのない大雨と大風になり、久斗川はみるみる氾濫し、あつとい言う間に家も田んぼも大洪水に流されまわりました。しかし、村人は全員が避難はなかつたのです。(おわり)